

学習内容の定着に向けた「課題改善プリント」の活用について

中部教育事務所 小学校・国語科

< 課題改善プリントの内容と効果的な活用法 >

★帯タイムと家庭学習とのリンクを取り入れる場合

・帯タイムで課題改善プリントに取り組む（10分弱）。友だちと答え合わせをする場合は、解答した理由等を説明し合って、答え合わせをする。教師は、児童用のチェック表「パワーアップの書」を児童に配付しておき、児童はチェック表に正解数を書き込んでいく。26問全て解き終わったらどの問題でつまづいたのか、児童自身に○や◎を記入をさせることで、学力の定着状況の自覚・学習の調整を促す。
→その日の家庭学習では、※自主学习ノートに間違えた問題を切り貼りし、赤鉛筆等で印をつけたり次に間違わないためのコツを自分の言葉で書き込んだり、類似問題を自分で作成したりしながら、説明を入れる。（教師は後から見ても役立つノートを作ることを意識付けるために、価値付けていく。）

問題番号	問題内容	正解数	誤答数
26	漢字の読みかた	1	0
25	漢字の読みかた	1	0
24	漢字の読みかた	1	0
23	漢字の読みかた	1	0
22	漢字の読みかた	1	0
21	漢字の読みかた	1	0
20	漢字の読みかた	1	0
19	漢字の読みかた	1	0
18	漢字の読みかた	1	0
17	漢字の読みかた	1	0
16	漢字の読みかた	1	0
15	漢字の読みかた	1	0
14	漢字の読みかた	1	0
13	漢字の読みかた	1	0
12	漢字の読みかた	1	0
11	漢字の読みかた	1	0
10	漢字の読みかた	1	0
9	漢字の読みかた	1	0
8	漢字の読みかた	1	0
7	漢字の読みかた	1	0
6	漢字の読みかた	1	0
5	漢字の読みかた	1	0
4	漢字の読みかた	1	0
3	漢字の読みかた	1	0
2	漢字の読みかた	1	0
1	漢字の読みかた	1	0

そうか。相手が目上の人ときは「いただく」だった！

よし、がんばるぞ！

敬語がちょっと弱かったなあ…。

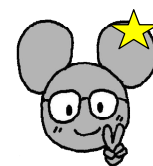
役立つノートになっているよ。これならパワーアップ間違いないね。

次回は、100点になるように間違ったところを自学でやろう。

今日も工夫してやってみよう！

< 備考 > ※児童用のチェック表「パワーアップの書」（PDF版）は、こちらの表をクリックするとダウンロードして印刷できます。

答え合わせでは、正解・不正解だけにとどまらず、なぜその答えを選んだのか簡潔に説明し合うこと、また、児童に配付する「パワーアップの書」に結果を継続的に書き込ませることがポイントです。
なお※印、自主学习ノートへの取組の例は、[「中部の湖」](#)、[B補充学習の「BB1 国語科のおすすめ補充学習」](#)をご参照ください。



学習内容の定着に向けた「課題改善プリント」の活用について

中部教育事務所 小学校・国語科

< 課題改善プリントの内容と効果的な活用法 >

★授業と帯タイムとのリンクを取り入れる場合

・該当単元の学習をした日の帯タイムで、類似問題として、力試的に活用する。

例：4年生「文の組み立てと修飾語」の学習をした日の帯タイムで課題改善プリント3に取り組む。

4年生「漢字辞典の使い方」の学習をした日の帯タイムで課題改善プリント22に取り組む。

5年生「敬語の使い方」の学習をした日の帯タイムで課題改善プリント21に取り組む。

☆教師は、「パワーアップの書」を定期的に集めるなどして個々の児童の課題を把握しておき、どの部分に課題があるのかを児童と共有しておく。1～26まで一通り取り組んだ後は、それぞれの児童が、○や◎を記入した問題を参考に、自分の課題に合ったプリントに再度取り組み、100点をとることで課題改善に向けて達成感を味わうことができるよう、継続的に繰り返し取り組むなど、手立てを講じていく。

重要!

今日の帯タイムはプリント3でさらに定着を図ろう！

OOさんは、ここが苦手なところだな。うちのクラスは、この問題で間違った子どもが多いから…

プリント1の結果から順に見ていくと24、25が気になるから修飾語をパワーアップしたいです。

Oさんは、どこをパワーアップしたい？

家庭学習でもやってきたから、今日の帯タイムはバッチリだ！

教師用の一覧で4年生ができてそうなプリントを確認しよう。

※課題改善プリント 教師用一覧 (PDF版) を開いて「内容」をそれぞれクリックすると、問題をダウンロードして印刷できます。
※課題改善プリント 教師用一覧 (PDF版) は、上の吹き出し内の表をクリックするとダウンロードして印刷できます。

< 備考 >

一部のプリントを除いて、5年生からほとんどのプリントが活用可能です。4年生は約半数が活用可能です。プリントを「1回やって終わり」ではなく、児童用のチェック表(パワーアップの書)を配付しておき、児童と教師双方が学力の定着状況について、弱みと強みを自覚したり把握したりすることがポイントです。補完すべきところを明確にして課題改善に向かうことで、学力向上を目指しましょう。